

神田川に関する基礎知識

全中理東京大会 エクスカーション（神田川取水施設）

(1) 全景

三鷹市井の頭公園（井の頭池）に源を発し、新宿、豊島、文京の各区境を東流し、隅田川に注いでいる。総延長 24.6 km、流域面積 105.0 km²。途中、善福寺川、妙正寺川を合流し、日本橋川を分派している。



出典：東京都建設局

(<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/sanken/kasen.html>)

(2) 歴史の中の神田川

徳川秀忠の時代に、水害防止用の神田川放水路と江戸城の外堀を兼ねて東西方向に掘割が作られ、現在のような渓谷風の地形に造り替えられた。

本郷台地で南流していた流路を東に付け替える工事が行われた。現在の飯田橋駅近くの牛込橋付近から秋葉原駅近くの和泉橋までの開削を担当したのは、仙台藩の伊達政宗。本郷台地を切り通して湯島台と駿河台とに分け、現在の御茶の水に茗溪（人工の谷）を開削したため、この区間は特に「仙台堀」または「伊達堀」とも呼ばれる。当初、仙台堀は川幅が狭く洪水を解消する機能が低かったが、河川舟運のための拡幅が行われ、この拡幅された掘割から河口までを神田川と呼んだ。

外堀、駅名（江戸川橋）、昌平橋の由来、茗溪



歌川広重『名所江戸百景』
「昌平橋 聖堂 神田川」



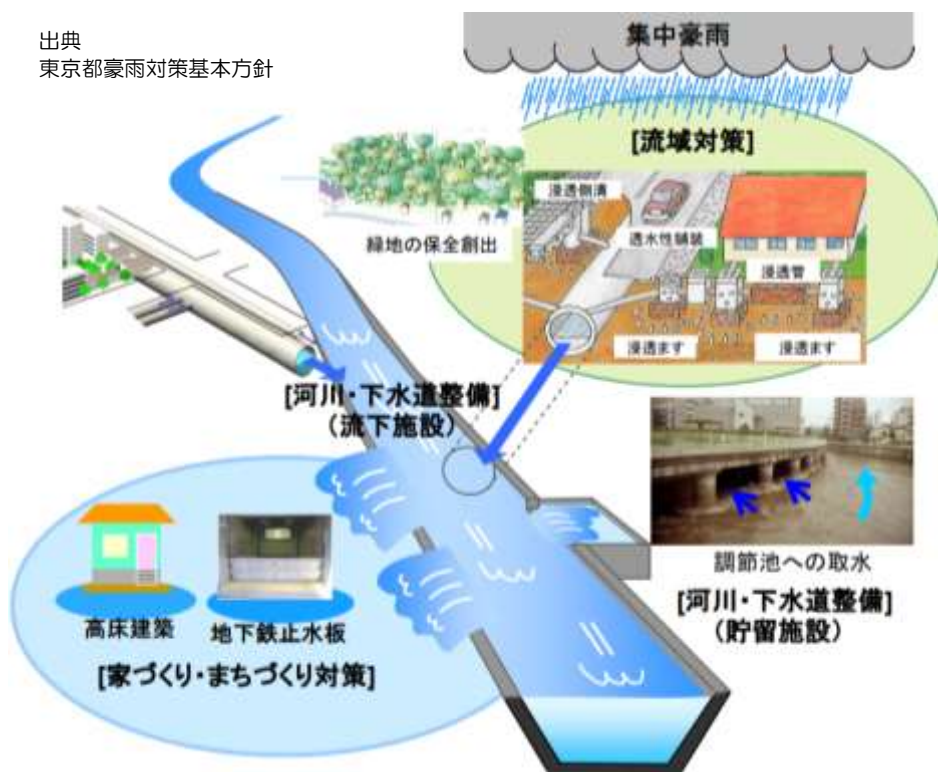
御茶ノ水の名は、北側にあった高林寺（1657年明暦の大火後に、文京区移転）の境内の湧水を、將軍家に献上したことから呼ばれるようになった。

(3) 神田川流域豪雨対策

東京都は、昭和 61（1986）年 7 月の「東京都における総合的な治水対策のあり方について」に基づき、流域別に総合的な治水対策暫定計画を策定し（神田川流域は平成元（1988）年 5 月策定）、河川や下水道の整備、流域対策などの治水対策を総合的に実施してきた。

特に平成 17（2005）年 9 月の集中豪雨は、1 時間で 112 mm、1 日 251.0 mm の雨量となり、浸水被害は 125.9 ha の面積となった。流域全体が都市化され、流域から大量の水が河川や下水道に流れ込むため、水害の発生しやすい状況となっている。

出典
東京都豪雨対策基本方針



対策として、次のようなものが計画されている。

- ①河川の整備
 - (ア) 護岸の整備
 - (イ) 分水路の整備

(ウ) 調節池の整備 (平成 19 年のデータ)

河川	名称	調節池容量 (m ³)	所在地
神田川・善福寺川・妙正寺川	神田川・環状七号線地下調節池	540,000	杉並区、中野区
妙正寺川・江古田川	落合調節池	50,000	新宿区
	上高田調節池	160,000	中野区
	妙正寺第一調節池	30,000	中野区、新宿区
	妙正寺第二調節池	100,000	中野区
	北江古田調節池	17,000	中野区
善福寺川	和田堀第二調節池	2,500	杉並区
	和田堀第三調節池	3,000	杉並区
	和田堀第六調節池	48,000	杉並区

- ② 流域整備
 - (ア) 透水性舗装
 - (イ) 浸透マス
- ③ 家づくり・まちづくり対策
 - (ア) 高床建築
 - (イ) 地下鉄止水板